

2013年度第1四半期決算の概要(補足資料)

三井化学株式会社

2013年8月22日

1) 2013年第1四半期決算の概要	・・・ 1
2) 2013年度第1四半期 事業の概況	・・・ 2
3) 機能化学品セグメントの増減概要（売上高・営業利益）	・・・ 3
4) 機能樹脂セグメントの増減概要（売上高・営業利益）	・・・ 4
5) ウレタンセグメントの増減概要（売上高・営業利益）	・・・ 5
6) 基礎化学品セグメントの増減概要（売上高・営業利益）	・・・ 6
7) 石化セグメントの増減概要（売上高・営業利益）	・・・ 7
8) フィルム・シートセグメントの増減概要（売上高・営業利益）	・・・ 8

1) 2013年第1四半期決算の概要

(単位:億円)

摘 要	12年度	13年度	増減	増減率
	4-6月決算	4-6月決算		
売上高	3,523	3,631	108	3%
営業利益	69	93	24	34%
営業外損益	△22	6	28	—
経常利益	47	99	52	111%
特別損益	△37	△20	17	—
税金等調整前四半期純利益	10	79	69	678%
四半期純利益	△22	47	69	—
為替レート(円/\$)	80	99	19	
国産ナフサ(円/KL)	60,600	65,500	4,900	

2) 2013年度第1四半期 事業の概況

円安効果による国内自動車産業の輸出向け生産の回復により、石化、機能樹脂は総じて堅調に推移しています。ナフサクラッカーについても、当初予想の稼働率80%を上回って稼働しています。北米の自動車も好調を継続しており、海外のPPコンパウンドも堅調です。

メガネレンズモノマー、不織布等のヘルスケア製品群および農薬についても底堅く推移しており、順調に収益を拡大しています。

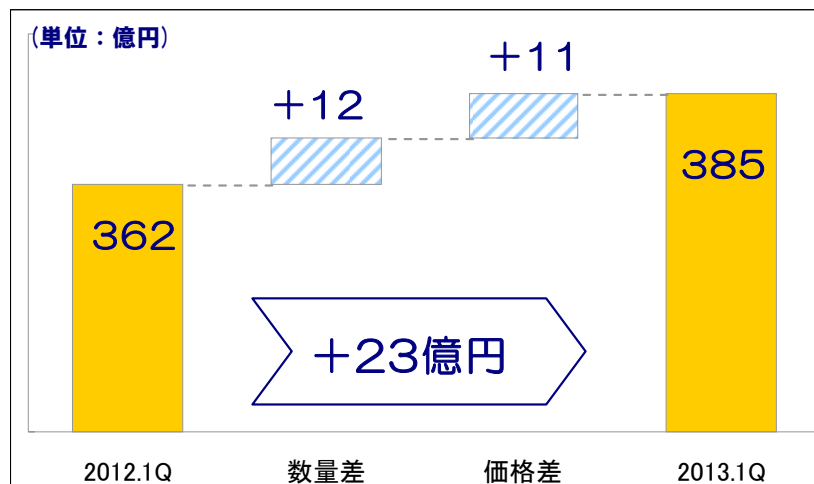
電材関連もスマートフォンの好調を背景に、機能性ポリマー製品群を中心に好調に推移しています。

一方、中国市況は、依然、不透明な状況が継続しており、中国内需の成長鈍化、欧州向け輸出不振、供給過剰が継続しており、フェノール、PTA等の基礎化学品については、見込みどおり低調に推移しています。2Q以降も、PTAは市況に底打ち感が出ているものの、フェノール類については引続き厳しい状況が継続すると見ています。

また、ポリウレタン材料のTDIについても、中国、欧州での需要が弱く、市況も下落傾向で推移しています。2Qも急回復は見込めないものの、8月以降は需要期に入ることから、市況も徐々に回復していくものと見ています。

3) 機能化学品セグメントの増減概要(売上高・営業利益)

売上高増減 (2013年第1四半期 対 2012年第1四半期)



385億円 (前年同期比 +23億円)

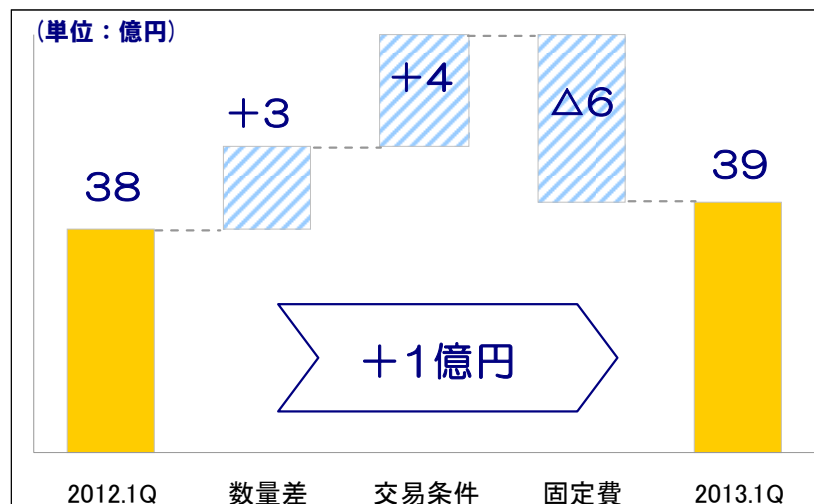
数量差 +12億円

メガネレンズモノマー、不織布、農薬等の拡販。不織布については、国内外で紙オムツ需要が旺盛であり、昨年、四日市に新設した設備の稼動定着も寄与した。また、世界トップシェアのメガネレンズモノマーおよび農薬は、海外での需要が拡大している。

価格差 +11億円

主に農薬の輸出、タイの不織布子会社等の為替差。

営業利益増減 (2013年第1四半期 対 2012年第1四半期)



39億円 (前年同期比 +1億円)

数量差 +3億円

メガネレンズモノマー、不織布等の増販。

交易条件 +4億円

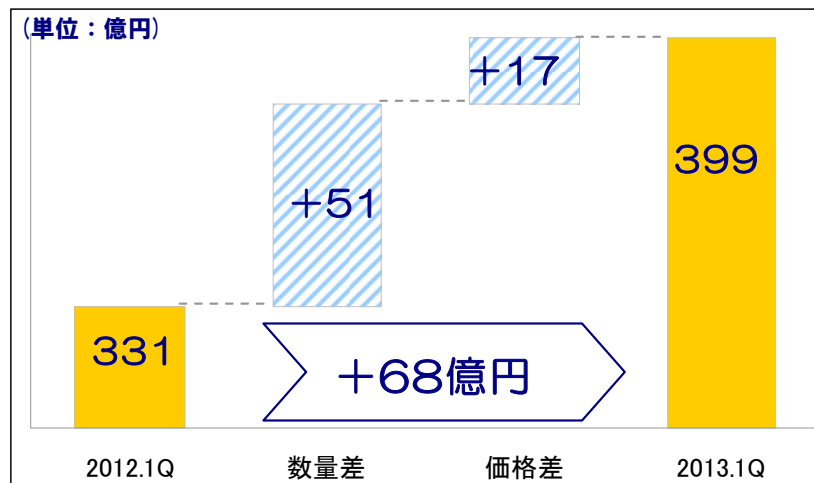
主に農薬等での為替差。

固定費他 △6億円

岩国休止固定費の戻り及び在庫影響。

4) 機能樹脂セグメントの増減概要(売上高・営業利益)

売上高増減(2013年第1四半期対2012年第1四半期)



399億円 (前年同期比 +68億円)

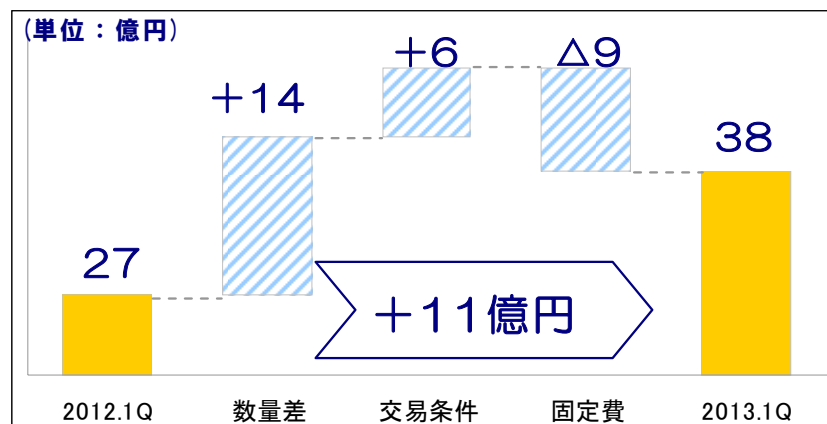
数量差 +51億円

円安効果および北米を中心とする自動車用途の需要拡大により、エラストマー、機能性コンパウンド等が拡販。

価格差 +17億円

主に為替差による増収。

営業利益増減(2013年第1四半期対2012年第1四半期)



38億円 (前年同期比 +11億円)

数量差 +14億円

自動車用途の需要拡大に伴い、エラストマー、機能性コンパウンドが増販。スマートフォン向けに出荷が好調な機能性ポリマー製品も増販。

交易条件 +6億円

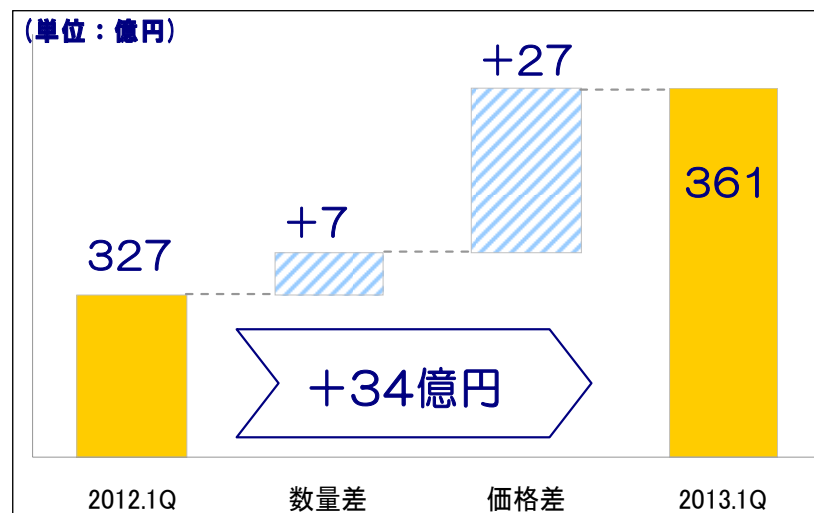
為替差および機能性ポリマー等の交易条件改善。

固定費他 △9億円

主に岩国休止固定費の戻り

5) ウレタンセグメントの増減概要(売上高・営業利益)

売上高増減（2013年第1四半期 対 2012年第1四半期）



361億円（前年同期比 +34億円）

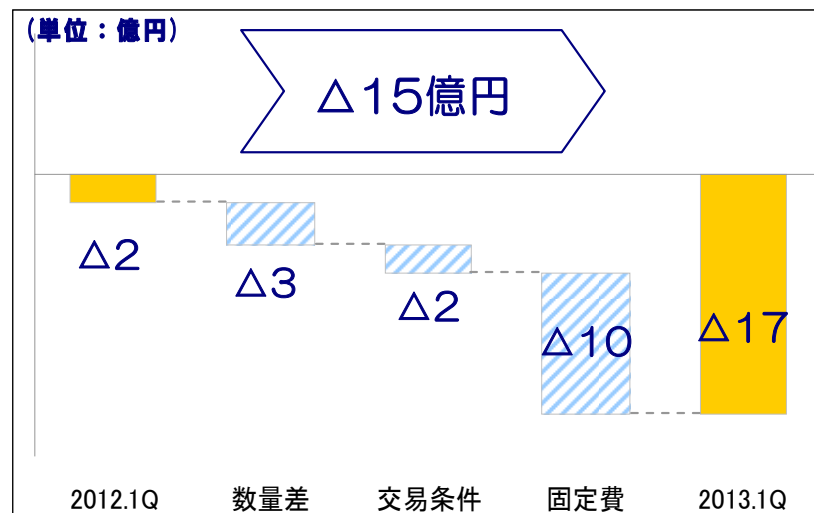
数量差 +7億円

TDI等ポリウレタン材料の海外での販売数量増加。

価格差 +27億円

主に為替差。

営業利益増減（2013年第1四半期 対 2012年第1四半期）



Δ17億円（前年同期比 Δ15億円）

数量差 Δ3億円

成形材料製品の販売低調など。

交易条件 Δ2億円

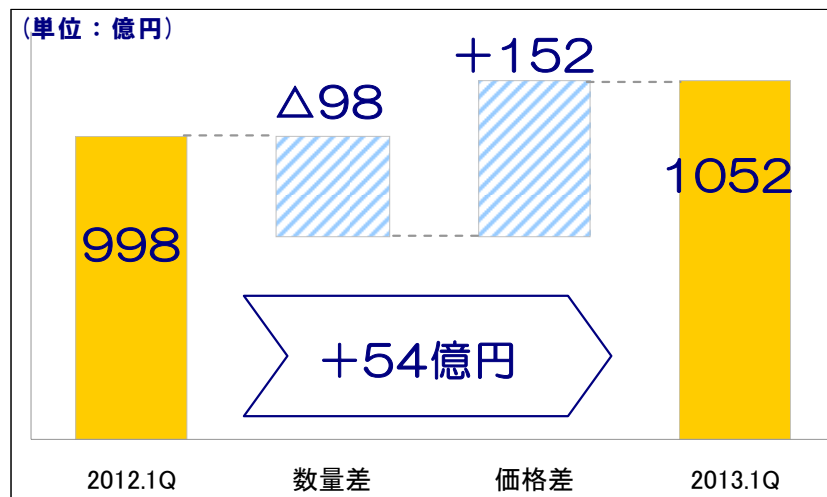
海外のTDI市況下落および原燃料価格の上昇。

固定費他 Δ10億円

岩国休止固定費の戻りに加え、在庫取崩しが前年より多く、在庫固定費負担の増加。

6) 基礎化学品セグメントの増減概要(売上高・営業利益)

売上高増減 (2013年第1四半期 対 2012年第1四半期)



1,052億円 (前年同期比 +54億円)

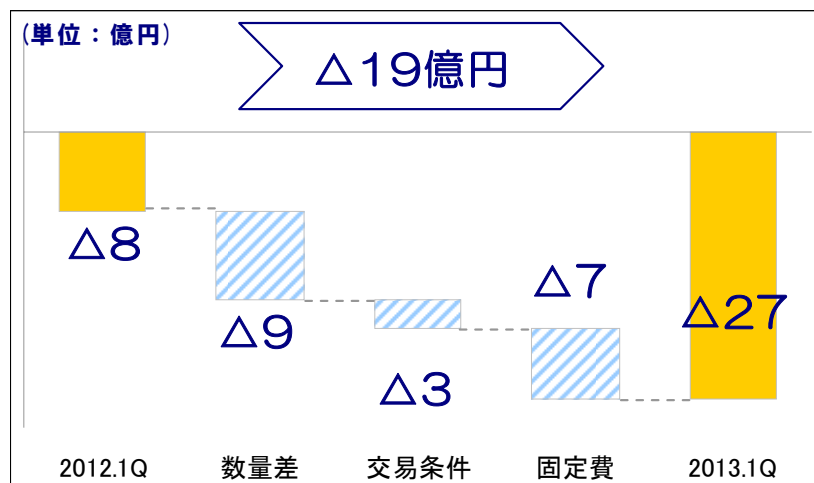
数量差 $\Delta 98$ 億円

事故影響の戻りがあるものの、フェノール類、PTAの中国を中心とする需要低迷。

価格差 +152億円

輸出、海外品の為替差およびPH類を中心とした原料価格上昇に伴う国内での販売価格上昇による増収。

営業利益増減 (2013年第1四半期 対 2012年第1四半期)



$\Delta 27$ 億円 (前年同期比 $\Delta 19$ 億円)

数量差 $\Delta 9$ 億円

PH類、PTAのアジア需要後退に伴う減販。

交易条件 $\Delta 3$ 億円

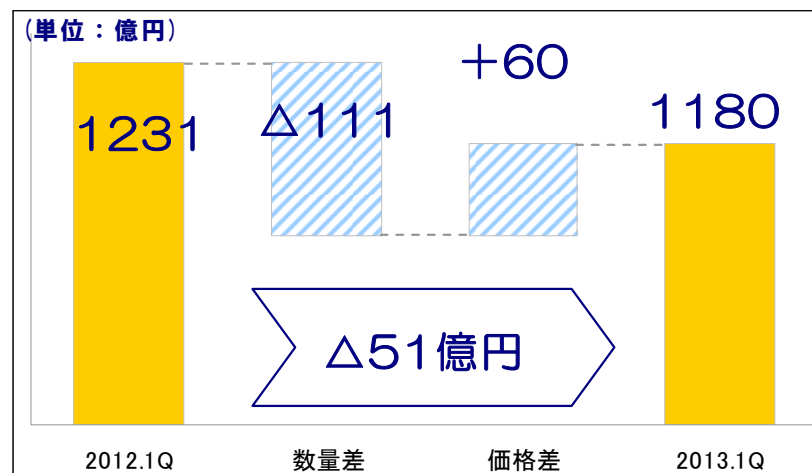
一部で在庫受払差のプラス要因あるも、主にPH類のアジア市況の低迷および原料ベンゼンの高止まりによる減益。

固定費他 $\Delta 7$ 億円

コスト削減努力があるも、岩国休止固定費の戻り等。

7) 石化セグメントの増減概要(売上高・営業利益)

売上高増減 (2013年第1四半期 対 2012年第1四半期)



1,180億円 (前年同期比 $\Delta 51$ 億円)

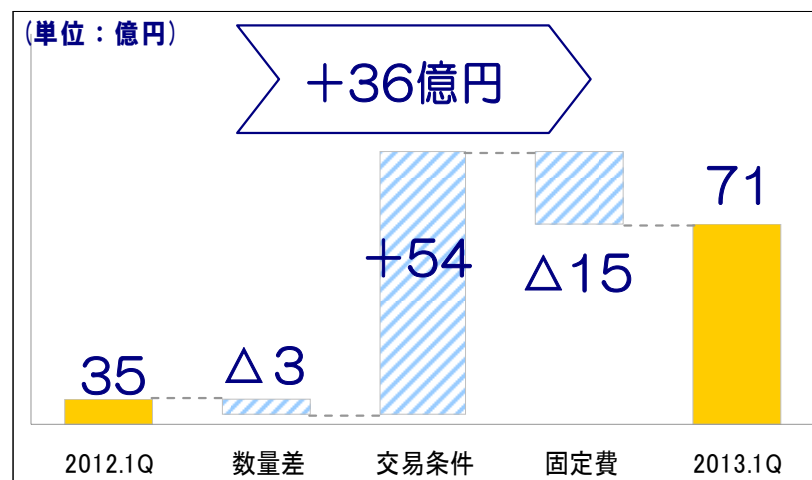
数量差 $\Delta 111$ 億円

海外の自動車向けPPコンパウンドは好調に推移するも、国内ポリオレフィンの需要減。

価格差 +60億円

為替差、原料価格上昇に伴うポリオレフィン価格の上昇。

営業利益増減 (2013年第1四半期 対 2012年第1四半期)



71億円 (前年同期比 +36億円)

数量差 $\Delta 3$ 億円

海外PPコンパウンドが堅調も、国内ポリオレフィン販売の減少。

交易条件 +54億円

ナフサ価格が比較的安定して推移したこと、および国内ポリオレフィンのフォーミュラー販売の期ずれ解消の進捗による期ずれ金額の大幅な縮小、並びにコストダウン等による増益。

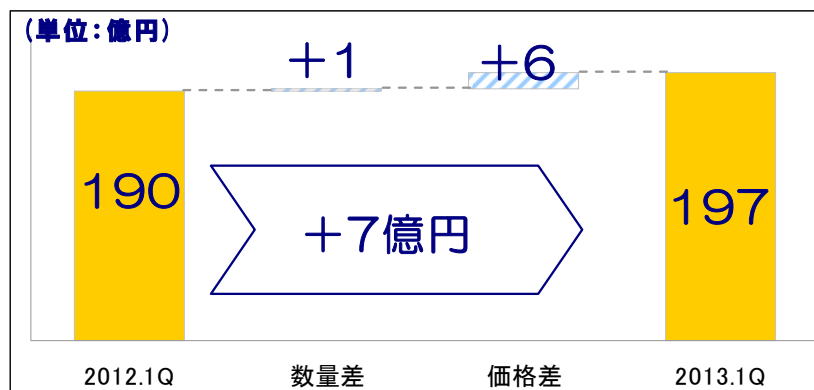
固定費他 $\Delta 15$ 億円

ポリオレフィンプラント停止に伴う在庫取崩しによるコスト増加。

8) フィルム・シートセグメントの増減概要(売上高・営業利益)



売上高増減(2013年第1四半期対2012年第1四半期)



197億円 (前年同期比 +7億円)

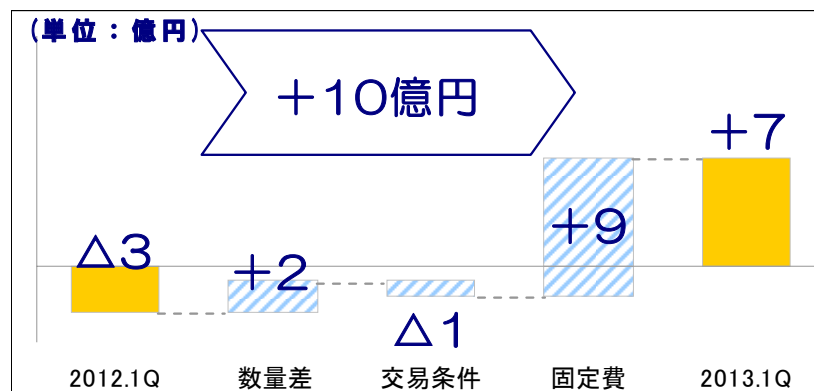
数量差 +1億円

産業用フィルム、機能シートの増販。

価格差 +6億円

包装フィルムでの原料価格上昇に伴う販売価格改定の影響、産業フィルム(半導体製造工程用フィルム)での為替差による増収。

営業利益増減(2013年第1四半期対2012年第1四半期)



+7億円 (前年同期比 +10億円)

数量差 +2億円

産業用フィルム、機能シートの増販。

交易条件 Δ 1億円

ナフサ上昇に伴う原料価格の上昇による減益。

固定費他 +9億円

前期の減損を始めとした固定費減少および経費減等。